

2022年上半期の振り返り

株主の皆さまには平素より格別のご高配賜り厚く御礼申し上げます。

2022年上半期は、中期経営計画 **AGC plus-2023** で掲げた主要課題に則した事業運営を行い、戦略事業では EUVフォトマスクブランクス、ライフサイエンスを中心に積極投資をしました。コア事業では、東南アジアのグローバルアルカリ事業のさらなる基盤強化に取り組み、その一環としてタイにおける生産能力の大幅増強を決定しました。一方、米国のソーダ灰製造販売会社の株式を譲渡し、北米建築用ガラス事業からの撤退を完了し、最適なポートフォリオへの転換を着実に進めています。当上半期の業績は、苛性ソーダや建築用ガラスの販売価格が上昇したこと、半導体向けフッ素関連製品、ライフサイエンス製品、エレクトロニクス製品の出荷が増えたことなどから、原燃材料価格高騰の影響を受けたものの、前年同期と比べ増収増益となりました。この結果、上半期における売上高、営業利益としては、いずれも過去最高となりました。



代表取締役・社長執行役員 CEO

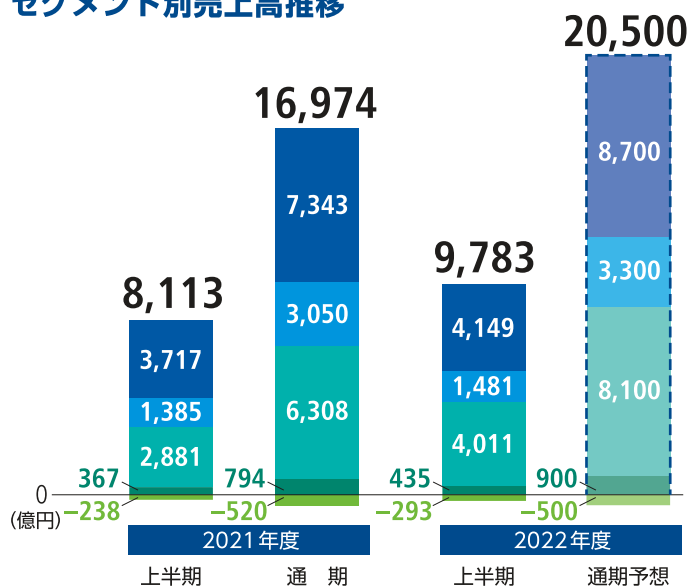
平井良典

業績ハイライト 2022年度上半期

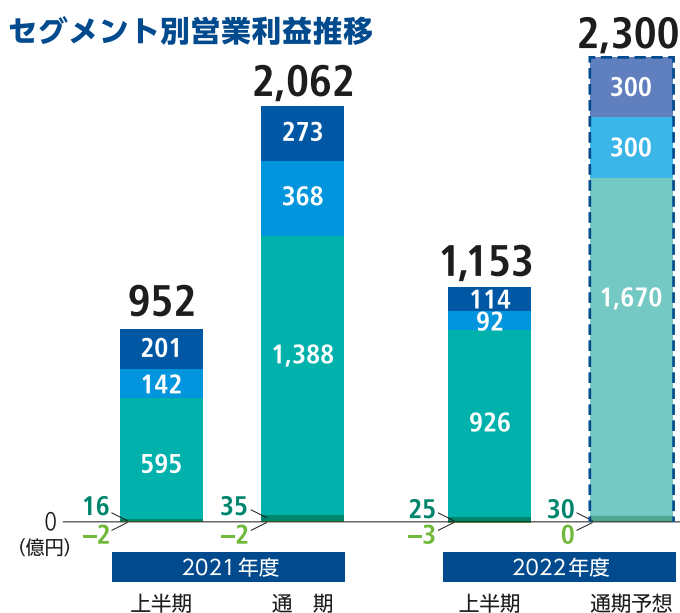
売上高 9,783億円 (前年同期比 20.6%増)

営業利益 1,153億円 (前年同期比 21.1%増)

セグメント別売上高推移



セグメント別営業利益推移



セグメント ■ ガラス ■ 電子 ■ 化学品 ■ セラミックス・その他 ■ 消去または全社

配当について

2020年

120円

2021年

210円

2022年予想

210円

セグメント別の概況

ガラス

前年同期比
増収・減益

建築用ガラスは、南米を除く地域で出荷が増加しました。また、販売価格は欧州を中心に全ての地域で上昇しました。自動車用ガラスは、半導体不足の影響により出荷が減少したものの、円安などの影響で売上高は増加しました。また、欧州における天然ガス価格の上昇や、自動車用ガラスの設備稼働率の低下等による製造原価の悪化の影響を受けました。

電子

前年同期比
増収・減益

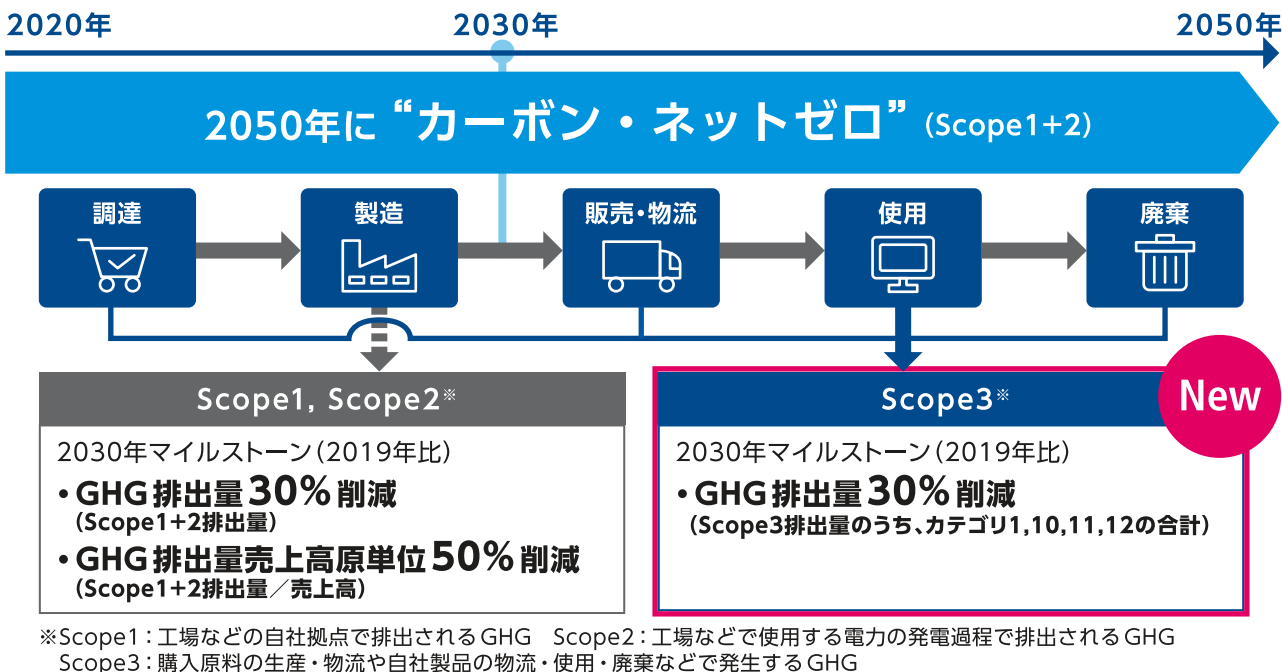
ディスプレイは、液晶用ガラス基板およびディスプレイ用特殊ガラスの出荷が減少しました。電子部材は、オプトエレクトロニクス用部材およびプリント基板材料の出荷が増加しました。一方、液晶用ガラス基板の新規設備立ち上げ等に伴う減価償却費の増加、原燃材料高および為替などの影響を受けました。

化学品

前年同期比
増収・増益

クロールアルカリ・ウレタンは、苛性ソーダの販売価格が上昇しました。フッ素・スペシャリティは、半導体関連向けを中心にフッ素関連製品などの出荷が大きく増加しました。ライフサイエンスは、合成医薬や、新型コロナウイルス関連製品を含むバイオ医薬品の受託が増加しました。

サステナビリティ経営の推進: Scope3目標を設定



AGCグループは中期経営計画 **AGC plus-2023** において、2050年までにカーボン・ネットゼロを目指し、そのマイルストーンとして、Scope1およびScope2の2030年GHG排出量削減目標を掲げています。これに加え、今般新たにScope3のGHG排出量削減目標を設定しました。地球温暖化係数が極めて低い次世代冷媒・溶剤AMOLEA®シリーズの普及や、サプライヤーエンゲージメント活動の強化などにより、Scope3目標の達成に取り組みます。

AGCグループはこれからも、中期経営計画 **AGC plus-2023** で掲げるポートフォリオ変革とサステナビリティ経営の追求により「2030年のありたい姿」を実現し、社会的価値・経済的価値の創出を通じて、持続可能な地球環境の実現に貢献していきます。今後ともAGCグループへの一層のご期待とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

AGCグループのDXと長期経営計画

AGCグループは長期経営戦略「2030年のありたい姿」の実現に向けて、コア事業と戦略事業を両輪として、最適な事業ポートフォリオへの転換を図り、継続的に経済的・社会的価値を創出することを全社戦略として掲げ、コーポレート・トランスフォーメーション（企業変革）に取り組んでいます。この中で重要な施策となるのが「事業ポートフォリオの変革」と「サステナビリティ経営の推進」です。そしてDX※は、これら重要施策を力強く推進し、加速する原動力としての役割を担うものです。今回は、このDXについてAGCグループの方針や取り組みを紹介します。



※DXとは

デジタルトランスフォーメーション (Digital Transformation) を意味し、経済産業省では、「企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること」と定義しています。

「DX銘柄2022」に選定

AGCは今年、経済産業省が東京証券取引所と共同で選定する「DX銘柄2022」33社の1社となりました。DX銘柄は、東京証券取引所に上場している企業約3,800社の中から、企業価値の向上につながるDXを推進するための仕組みを社内に構築し、優れたデジタル活用の実績が表れている企業を選定するものです。今回の選定は当社にとって、2020年に続く2回目となります。



AGCグループがDXで目指すところ

AGCグループのDXは、最新のデジタル技術を活用して、

業務プロセスの徹底的な効率化

お客さまや社会に対する新たな価値創出

を目指しています。AGCグループは、これからも業界をリードするDX先進企業でありたいと考えています。

AGCグループのDXロードマップ

AGCグループでは、

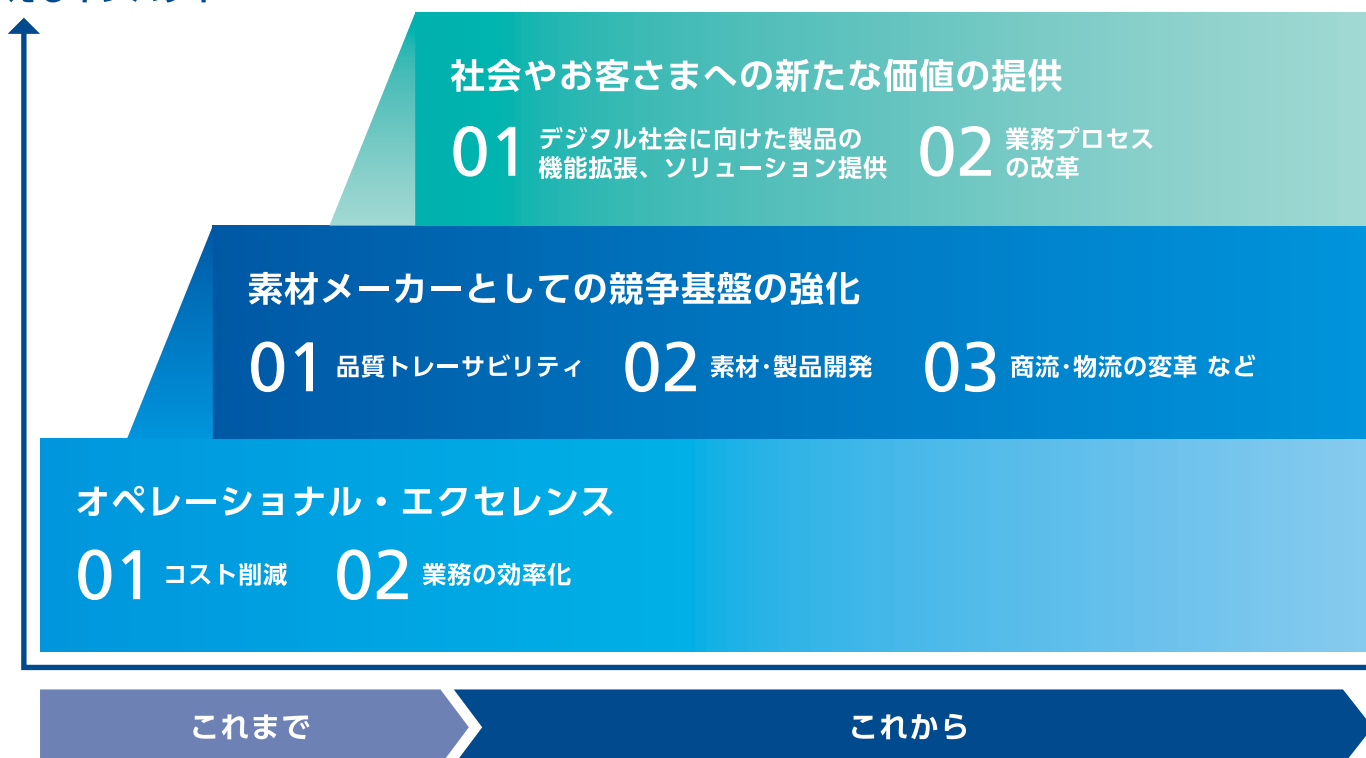
業務の効率化、
コスト削減などの
オペレーショナル・エクセレンス

素材メーカーとしての
競争基盤の強化

社会やお客さまに
新たな価値を
提供するためのイノベーション

の3つの領域でDXをグローバルに推進しています。これまでは主にオペレーショナル・エクセレンスの領域での成果を土台としてきましたが、これからはDXの取り組み領域をさらに広げ、経済的・社会的価値の創出を追求していきます。

経済的・社会的価値に
与えるインパクト

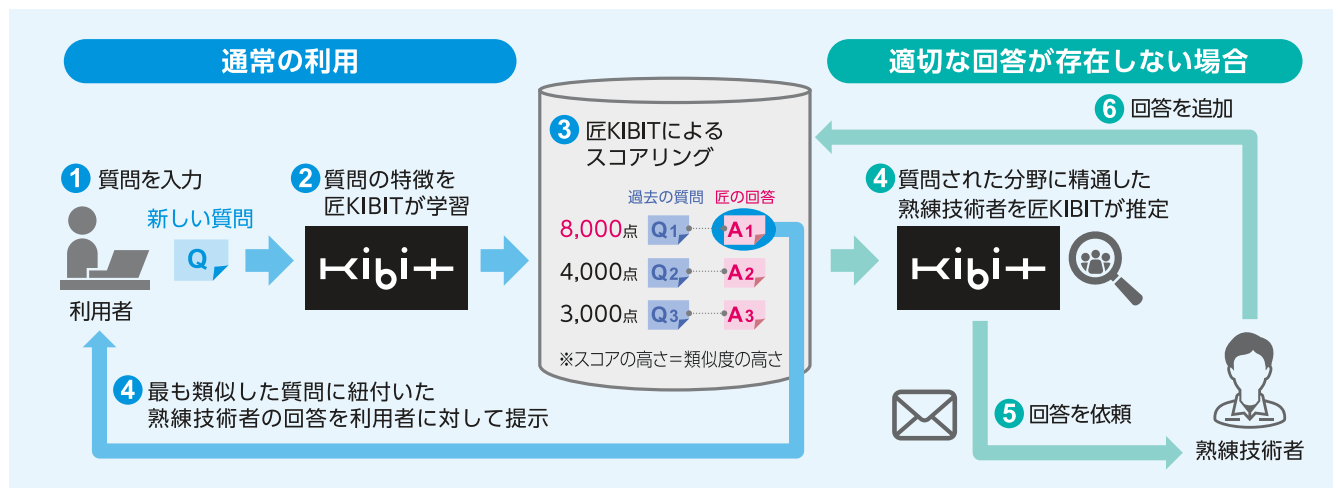


モノづくり分野の取り組み

AIシステム「匠KIBIT※」によるガラスの生産技術・技能の伝承と共有

ガラス生産は優れた生産設備に加え、熟練技術者・技能者が長年にわたって蓄積してきた暗黙知に支えられています。「匠KIBIT」は、その熟練技術者・技能者の暗黙知を見える化し、それを組織内で共有・管理し、さらにそれらをもとに新たな知識を生み出していく仕組みです。これにより、生産オペレーションを継続的に改善し、生産性向上に貢献することができます。

※「匠KIBIT」は、株式会社FRONTEOと当社が協同開発したAIシステムです。

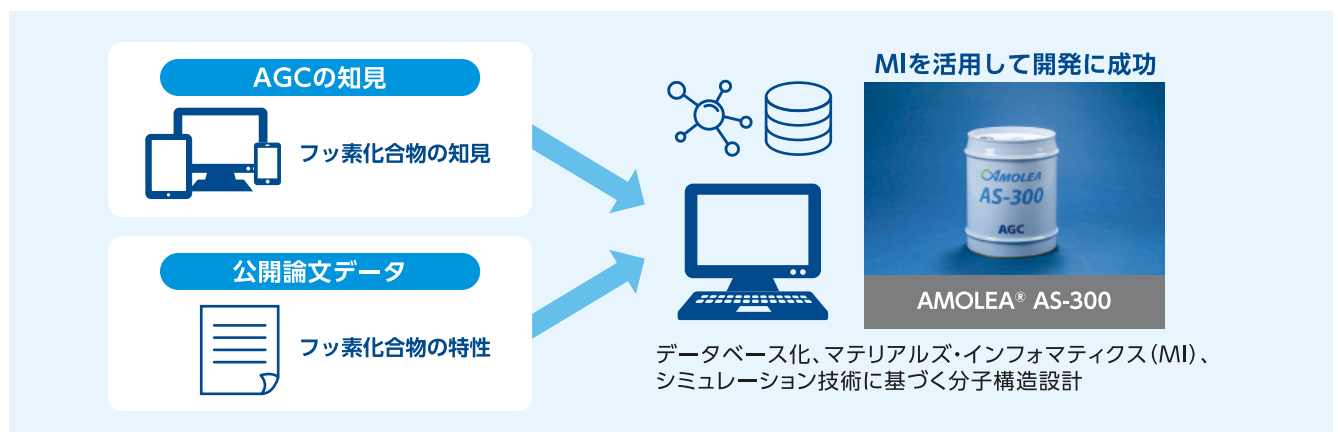


研究開発分野の取り組み

MI(マテリアルズ・インフォマティクス)※による、競争力のある素材開発と大幅な開発期間短縮

新たな機能の素材を短期間で開発することは、お客さまへの価値提供に直結します。AGCグループでは、強みとしてきたシミュレーション技術と、これまで蓄積してきた実験データなどをAIで解析するMIとを組み合わせ、競争力のある素材を短期間で開発し、実用化することに挑戦し、成功しています。地球温暖化係数(GWP)を従来の数百分の1のレベルにまで小さくした環境対応型次世代冷媒・溶剤「アモレア」シリーズAS-300は、MIによって開発したものです。

※計算科学や情報科学などを用いて、素材開発を大幅に効率化する技術のこと



お客さまニーズを明確化し再現する取り組み

「Coating on Demand」による、ビル外観の意匠性向上とサステナビリティ

ビル用省エネガラスの仕様決めプロセスには、数か月を要することがあります。AGCグループの欧州建築用ガラス事業部門は、Coating on Demandという仕組みを整え、その期間を劇的に短縮しました。また、この仕組みは、建築デザイナーをはじめお客さまのニーズをビルやその街全体の意匠性に反映させるとともに、安全・快適な都市インフラを可能にするものです。当社は、この仕組みにより、世界中のスマートシティプロジェクトに参画する多くの機会を得ることができています。

←----- 1日で完結 ----->

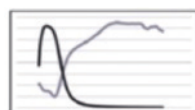
1.色と性能選択



2.シミュレーション



3.仕様確定

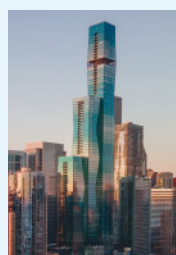


4.試作品完成



シミュレーション上で建築デザイナーと遮熱・断熱性能やガラスの色を決め、その日のうちに試作品を完成

試作品のイメージを
街づくりで実現

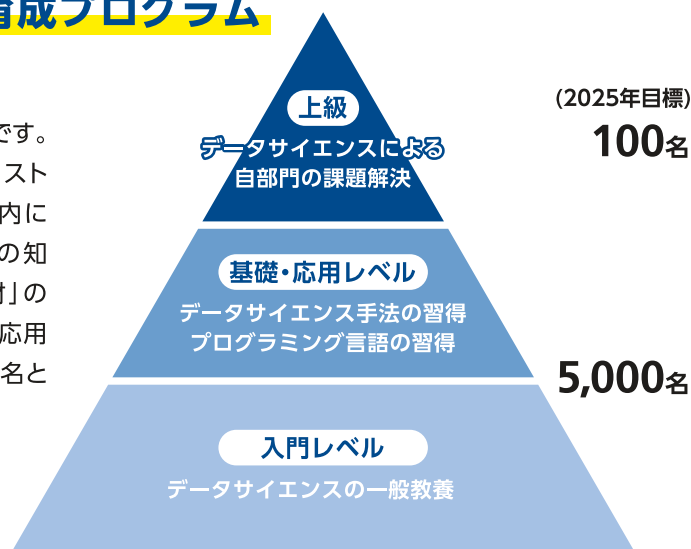


写真提供:Angie McMonigal

人財育成の取り組み

二刀流データサイエンティストの育成プログラム 「Data Science Plus」

DXの取り組みを進めるために、デジタル人財の育成は必須です。このためAGCグループでは独自のデータサイエンティスト育成プログラム「Data Science Plus」を整備し、国内に限らず海外においても運営を始めています。担当業務の知識に加え、高度なデータ解析スキルを持つ「二刀流人財」の育成を目指しており、2025年までに「入門レベル」「基礎・応用レベル」の人財を5,000名、「上級レベル」の人財を100名とすることを目標としています。



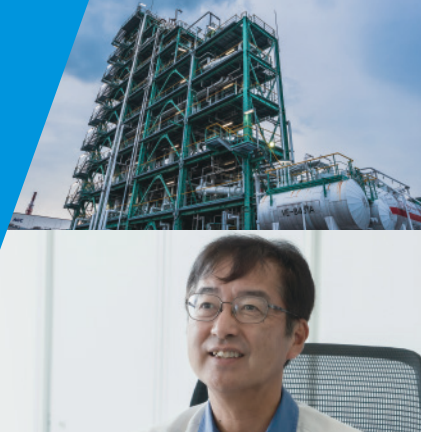
イベントのご案内

千葉工場バーチャル見学会

本年は化学品を生産する千葉工場のバーチャル見学会を開催します。見学会では千葉工場長から工場の概要や代表的な生産ラインなどをご紹介させていただき、株主の皆さまから直接ご質問いただく機会を設けます。奮ってご応募ください。

日時 2022年12/1 18:00~19:00

募集人数 限定100名様 形式 Zoomを用いたオンライン形式



応募要項

- 対象者: 2022年6月30日現在、当社株式を200株以上ご所有の株主様
- 応募方法: 以下のURLもしくは右の二次元コードより専用サイトにアクセスいただき、必要事項をご入力ください。
- 応募期間: 2022年9月12日(月)~9月30日(金)

<https://magicalir.net/survey> アンケートコード: a906de34



ご応募前の確認事項

- ※ご応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。抽選結果および当日の詳細につきましては、2022年10月上旬までにご登録いただいたメールアドレスにお知らせいたします。
- ※ご応募の際に、必要事項にもれ等の不備があると、ご応募を無効とさせていただきますので、ご注意ください。
- ※ご応募に際していただいた個人情報は、本株主様向けイベントを実施するうえで必要な限りにおいてのみ使用いたします。

【お知らせ】株主総会資料の電子提供制度について

改正会社法(2022年9月1日施行)により、株主総会資料の電子提供制度が創設され、株主様が、一定事項を記載した株主総会資料を書面で受領することを希望する場合は、株主総会の基準日までに、口座を開設している証券会社又は株主名簿管理人を通じて書面交付請求の手続を実施いただくことになりました。当社では、2023年3月開催予定の定時株主総会から電子提供制度が適用されることとなりますが、同総会においては、書面交付請求の有無にかかわらず、議決権を有する株主様に、同一の株主総会資料を送付する予定です。

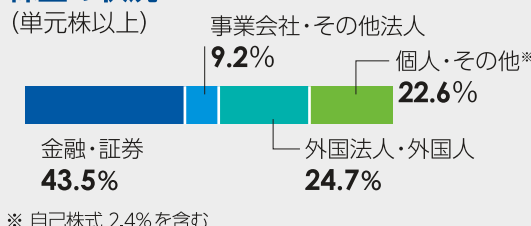
会社概要

商号 AGC株式会社
英文社名 AGC Inc.
創業 1907年9月8日
設立 1950年6月1日
資本金 90,873,373,264円
本社所在地
〒100-8405東京都千代田区丸の内一丁目5番1号
(新丸の内ビルディング)
電話(03)3218-5096
連結対象子会社数
204社(うち海外168社)

株式の状況

発行済株式総数 227,441,381株
株主数 94,737名
(単元株以上株主 81,767名)

株主の状況



株式関連情報

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会開催月 3月
基準日 定時株主総会/12月31日
期末配当/12月31日
中間配当/6月30日

公告方法 電子公告
[公告掲載アドレス]
<http://www.agc.com>

株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
[連絡先]
電話 0120-232-711 (通話料無料)
[郵便物送付先]
〒137-8081
新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

配当金のお支払いについて

配当金は、支払開始の日から満5年を経過いたしますと、定款の定めにより、お支払いができなくなりますので、お早めにお受け取りください。
なお、未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

単元未満株主をご所有の株主様へ

株主様がご所有の当社単元未満株主(1~99株)につきましては、当社に対し買取・買増をご請求することができます。お手続き用紙のご請求その他お手続きの詳細は、下記お問合せ先までご連絡ください。

株式に関するお問合せ先

証券会社等に 口座をお持ちの場合	特別口座の場合
口座を開設されている 証券会社等	三菱UFJ信託銀行株式会社(特別口座管理機関) 電話(0120)232-711(通話料無料)

(2022年6月30日現在)

将来情報に関する注記

本誌の記載のうち、将来の計画数値、施策などに関する記載については、不確定な要素を含んだものであることをご理解ください。